

水田 農業生産基盤の強化を目指して

問 耕地課 畑地かんがい係
☎476-1111(151・152)

◆新たな水田基盤整備の幕開け

農家負担ゼロの基盤整備

益丸地区では、地域の農用地利用の効率化および高度化の促進を図る目的で、『益丸地域農地集積協議会』が平成28年1月に設立され、現在まで農地中間管理事業を活用した活動を行い、県内でもトップクラスの実績を挙げています。

また、平成19年4月に設立された多面的機能支払交付金の活動組織である『益丸地区環境保全向上活動協議会』が、地区内の農道や水路の維持・保全活動に積極的に取り組んできたことが、今回の農地中間管理機構関連農地整備事業導入に取り組む大きな契機となりました。

地区推進委員会設立と地元説明会

11月30日（木）、県や町などの主催による水田ほ場整備説明会が開催されました。

それを受けて、益丸地区推進委員会の委員長に久保克己氏、副委員長に宮本昭一氏が選任され、約20人の推進委員体制が確立しました。

12月には地元地権者などに対する地元説明会が開催されました。

(12月18日、20日昼夜で開催の地元説明会)



上益丸地区公民館

先進地の事例に学ぶ（研修報告）

12月15日（金）、益丸地区推進委員会から、久保委員長をはじめとする9名の委員の参加を得て、水田ほ場整備の先進地である『さつま町の宮之城地区』と『いちき串木野市の川南地区』の現地研修を実施しました。

今回の研修は県大隅地域振興局が企画したもので、県土改連も同行し、色々な取組事例や意見を得ることができて、今後の事業推進に大変参考になりました。

(宮之城地区)



平成22年度に用水パイプラインと暗きょ排水を整備、水田の二期作にバレイショを作付けしていたが、現在はハウレンソウと二期作でキャベツを栽培している。